

# 市民文芸

## 短歌

阿南市春季短歌大会選

佳作

近藤 久子

うす紅の蜂須賀桜はんなりとビルの谷間のオアシス醸す

佳作

山本 賀代

掃除する吾の視野からふつと消え夫はそろりとウオーキングに

佳作

中山 芳子

晩秋の風の匂いが変わるとき秋は静かに吾が身を過ぎぬ

佳作

庄野 悦子

レントゲンに映りし影の一本は折れし心の傷跡ならむ

互選

入谷五十鈴

吹きぬける風も希望をまとうよう阿南市庁舎琴江の岸边

互選

米田 啓子

大洋の潮風受けてとりどりの椿群れ咲き一山賑わう

互選

荒瀬左知子

外つ国の遍路の二人微笑まし笑を交わして春の野を行く

互選

宮本久美子

「独りにしご免ね母さん」詫びながら帰省の娘は背を流しくくる

## 俳句

阿南市俳句連合会選

眠る山ありぬ火を噴く山ありぬ

河野 柳史

雑草に負けず凛々しく咲く野菊

西條 佳恵

箸先の子芋転がる夕餉かな

車田マサ子

石榴種飛ばす子の口とんがりて

萩原 陽子

スチュワードスの襟元飾る赤い羽根

中富 範子

子らはしゃぐコスモス畑や昼休み

吉田 當代

百態の松吹く風の爽やかに

末岐 美子

退社待つ松茸売りの日垂前

横井 知昭

道の辺に人と見紛う案山子かな

森 君江

秋晴や老の遠出の浮き浮きと

松村みどり

## 川柳

阿南川柳会 高木旬笑選

ジャンボくじ当たった夢で目が覚める

原 公美子

愛こそが心の扉ひらく鍵

多田紀久代

あほやなーの一言全身がゆるむ

野村 敏子

抜けました恨み辛みの刺やつと

橋本 征介

心にもビタミン補給カフェオーレ

持木 寿栄

一般応募

島尾美津子

プロセスを忘れ便利に慣れた子ら

仁井 信子

ふわふわの愛猫とわたしと嵐の夜

## 漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社選

秋思

谷口田鶴子

樹零銀杏映斜陽  
風舞黃黃一院粧

樹は銀杏を零して 斜陽に映え  
風は黄黄を舞わして 一院粧う

八十春秋山寺畔  
尋思安住是吾郷

八十の春秋 山寺の畔  
尋思す安住 是吾が郷

廢居躑躅

大地 和子

青嵐召處試山行  
偶看林中廢屋橫

青嵐召く処 山行を試む  
偶看る 林中廢屋の横たわるを

否識百年遺棄恨  
荒庭躑躅寂無聲

識るや否や 百年遺棄の恨しみ  
荒庭の躑躅 寂として声無し

※躑躅：つつじのこと

北朝鮮彈道ミサイル

高橋 静雄

核彈誰言千歲冤  
愚人一指覆乾坤

核彈 誰か言う 千歳の冤なりと  
愚人の一指 乾坤を覆す

比隣恐恐奈何是  
萬國制裁無候論

比隣恐恐 是を奈何せん  
万國の制裁 論を候つこと無かれ

歲晚書懷

吉形 和恵

烏兔如飛歲序彈  
匆匆百事染酸寒

烏兔 飛ぶが如く歳序弾き  
匆匆 百事 酸寒を染しむ

任他案上硯池滿  
只管向春齊筆端

任他 案上 硯池を満たし  
只管 春に向して筆端を斉う